

小規模特認校及び施設一体型の小中一貫校、 学校選択制のメリット、デメリット

1. 小規模特認校

[メリット]

- ・小さな集団で過ごすことで、人間関係が硬直化していたが、他の地域の児童生徒と接することで、表現力を向上させたり、人間関係を再構築するなど、学級や学校を活性化しやすい。
- ・小規模校であることで、学習指導や生活指導等においてきめ細かな指導を行うことができる。
- ・保護者や地域住民との連携により、地域の特性を活かした特色ある教育活動を行うことができる。
- ・選択を認めることで、保護者や児童生徒の希望に沿うことができる。

[デメリット]

- ・多くの希望者数は望めず、根本的に学校規模等の適正化を図ることは難しい。
- ・クラス替えができない。
- ・通学区域が広範囲になるため、児童生徒の通学の負担が発生する。
- ・校区外から通学している子どもにとっては、自分の住んでいる地域での友人関係が希薄になりやすい。

2. 施設一体型の小中一貫校

[メリット]

- ・校種の違いから生ずる子どもたちの心理的負担を軽減することができる。特に、中学校入学にあたって安心感をもつことができる。
- ・学校教育目標やめざす子ども像を統一させるなど、同じ教育観に基づいて教育を行うことができる。
- ・学習指導や生活指導上、一貫した指導方法に基づいて指導することができる。
- ・教員相互の交流を図りやすく、小学校において教科担任制等を導入しやすい。
- ・異年齢交流学習を行いやすく、年長者や年少者などと多様な関わり方を学ぶことで、社会性や協調性などを育成しやすい。

[デメリット]

- ・上級生が下級生を甘やかす、下級生が上級生に甘えるなどの場面が見られやすい。
- ・小学校高学年にとって、活躍の場が少なくなる。特に6年生にとっては最高学年としての活躍の場が少なくなる。
- ・施設を新設するため、新たな学校用地や予算が必要となる。

3. 学校選択制

[メリット]

- ・選択を認めることで、保護者や児童生徒の希望に沿うことができる。
- ・学校を選択することで、保護者の学校への関心を高め、積極的な協力や参画が期待できる。
- ・各学校が切磋琢磨することで、特色ある教育活動が行われる。

[デメリット]

- ・過度の競争を招き、学校の序列化を進めたり、学校間格差を広げたりする可能性がある。
- ・風聞、うわさ等により特定の学校に希望が集中したり、特定の学校を避けるという事態を招く恐れがある。特に、入学者が大幅に減少することで、適正な規模を維持できない学校が出てくる可能性がある。
- ・通学区域が広範囲になるため、児童生徒の通学上の負担が発生する。
- ・異なる学校の児童生徒が同一の校区内に居住するため、地域と学校の連携が図りにくい。